

水谷中学校区 小中一貫教育の取組

1 研究の概要

(1) 研究テーマ

「主体的に深く学び、心豊かにたくましく生きる児童生徒の育成」
～9年間を見通した学びと育ちの連続性を通して～

(2) 研究の方針

水谷中学校区には2校の小学校が含まれ、水谷東小学校の全卒業生と水谷小学校の約1/3の卒業生が進学してくる。水谷小学校の約2/3の卒業生は、みずほ台小学校の全卒業生の進学先である本郷中学校に進学する。

こうした実情から、これまで水谷中学校区と本郷中学校区は合同して中学校2校、小学校3校の5校による連携を進め、研修会や連携事業を行ってきた。

本研究においても、水谷中学校区と本郷中学校区と連携を図り「5校小中一貫教育研究協議会」を立ち上げ、5校で小中一貫教育の取組を実施していくこととした。

(3) 研究実践組織

「5校小中一貫教育研究協議会」を中心に、研究実践組織として8部会を組織し課題検討、実践を行っていく。

2 目指す児童生徒像

「自ら考え自ら学び、確かな学力を身につけ、生きる力を備える児童生徒」

3 乗り入れ授業を行っている教科領域

(1) 水谷中学校英語科教員の小学校外国語授業への支援

(中学校からの学習乗り入れ)

(2) 小学6年生の出前授業の実施(水谷東小：英語・保健体育・音楽)



4 カリキュラム編成に手を掛けている教科領域

(1) 学力・体力の向上策の共有と実践

(2) 小中一貫した英語指導の研究と実践

(3) 「家庭学習の手引き」を活用した家庭学習の指導法の研究と実践

5 行っている交流事業

- (1) 夏季休業中、中学生が小学生を学習指導
- (2) 5校合同あいさつ運動の推進
- (3) 小中交流音楽会で中学3年・小学6年との合唱交流
- (4) 中学校陸上部による小学校6年生への陸上競技指導
- (5) 合同職員研修の実施（小中一貫教育各研究部会議）
- (6) 中学校英語科教員の小学校への派遣
- (7) 中学校さわやか相談員の小学校への派遣
- (8) 中学校職員の小学校授業参観
- (9) 小中連絡会の実施

6 今年度の成果と課題

【成果】

水谷中学校区と本郷中学校区5校の教職員が互いに連携、協力、研修、実践、振り返りをし、各研究部会の共通理解・行動を通して9年間を見通した一貫教育指導の足がかりを作ることができた。また、全体研究発表会において各研究部の実践および達成について共有することができた。

特に、実践を通して、これまで以上に各校の教育実践についての情報交換を行うことができたこと、小中一貫教育の実践について、各教員が意識を高めることができたことが大きな成果であり、今後の小中一貫教育実践のためなる取組とすることができた。

【課題】

今後、より実際的かつ効果的な小中一貫教育の実践を実施するための課題として以下が考えられる。

- (1) 目標・課題明確化と共有
→小中学校間において、この小中一貫教育を推進する意義と実践ポイントについて再度整備・共有して実践への意義付けを強める。
- (2) 負担感の軽減
→今年度は現実的に、取組内容が増えたという意識が教員内に強かった。
(1)と同時に、これまでの教育活動を小中一貫の視点で整理する。
もしくは、強化する実践にしていくことなどで負担感の軽減が必要。
- (3) 一貫カリキュラム検討の推進
→(2)でもふれた通り、新たな取組の実施に向かっていた部分が大きいので、各教科等、9か年を一貫として進めていくカリキュラムの洗い直し、整備を進める必要がある。